

## 男女共同参画推進連携会議 次世代とともに歩むチーム 第1回会合 概要

■日時 : 令和2年9月28日(月) 10:00~12:00

■場所 : オンライン開催

■参加者 : 別紙参照

■議事概要 : 以下のとおり

### 1. 挨拶

### 2. 本チームの趣旨説明

### 3. 文科省より学校教育におけるSDGsの取扱いについて説明

- 国際統括官付 堀尾国際統括官補佐  
資料2に基づき、ESDとSDGsについて、ユネスコスクール等について説明
- 総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 高野女性政策調整官  
独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)によるSDGsの取組について説明

### 4. チームメンバーよりユースとの取組みについて発表

- 公益社団法人ガールスカウト日本連盟 片岡事業統括部長  
資料3-1に基づき、ジェンダーに関する女子高生アンケートや女子高生自身が行う結果の発信等の取組について発表
- 公益財団法人日本YWCA 清塚運営委員  
資料3-2に基づき、就労支援や国際的#metoo運動 日韓ユースカンファレンス等、全国で行われているユースへの働きかけについて発表
- 日本労働組合総連合会 山本副事務局長  
資料3-3-1、3-3-2に基づき、団体で作成した春季生活闘争アクションリーフレットや若者応援誌YELLにおける特集等のSDGsにかかわる取組について発表

### 5. 副教材骨子案及びユース団体との連携について意見交換

- 大崎コーディネーター、大石副コーディネーターより副教材骨子案の概要について、資料4に基づいて説明。その後、チームメンバーと以下のとおり意見交換を行った。
- 大学女性協会 山下理事  
教材の普及方法について 各自治体では男女共同参画事業を行っているので、それと連携して域内の小中学校に教材を広めていくことができるのではないかと。
- 国立大学協会 後藤弘子  
ジェンダー平等教育は初等教育がキーになるため、小学校や幼稚園での教材を作るということのほうが重要。また、中高の教材作成にあたっては、作成過程に当事者をぜひ入れてほしい。
- 全日本中学校長会 千葉会計部長

教材があっても教師がジェンダーの視点を持っていないことがある。現状として、都内では中学校が611校あるが女性校長はたった54人。指導書はぜひ作るべき。

- 全国婦人相談員連絡協議会 赤池副会長  
SDGsをテーマとした教材の中で、暴力や性についても盛り込むべき。
- 公益社団法人ガールスカウト日本連盟 片岡事業統括部長  
団体内で、子ども向けだけでなく、指導者に向けたワークショップなどでも活用したい。また、団体でも考えていることであるが、この資料を企業向け社員研や、教員免許更新のための講座などで活用されるとよいと思う。
- お茶の水女子大学 室伏学長  
お茶の水女子大学では小学校低学年向けの教材を作成し、都内教育委員会とも協力して、教材を用いた授業を行っている。チーム会での教材普及とも連携していきたい。
- 認定特定非営利活動法人日本BPW連合会 名取副理事長  
教材の対象として、中学生向けなのか高校生向けなのか対象を絞った方がよい。全国の児童生徒に周知できるように必要な連携を図っていただきたい。
- 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 青野教授  
発達段階に応じて複数の教材を作成することが理想。
- 一般社団法人日本女性科学者の会 近藤会長  
幅広い年齢を対象とした副教材を作成し、発達段階に応じた指導書を作成するという方法もあるのではないかな。
- 生活経済ジャーナリスト／人財開発コンサルタント 和泉議員  
生徒が当事者の視点で、自分との結びつきを感じることができるような内容になるとよい。また、動画等を活用する方法もあるのではないかな。
- 全国人権擁護委員連合会 玄番副会長  
教材を活用して、生徒だけでなく家庭に持ち帰って親子でジェンダー平等について学ぶという機会ができるとよい。
- 特定非営利活動法人インクルいわて 理事長 山屋議員  
周知先として、復興という視点で復興庁の男女共同参画班や母子施策として厚労省や男女共同参画センターが行う講座等を通じて地域に広げていくこともできる。
- 公益財団法人日本YWCA 清塚運営委員  
女子と男子がなりたい職業を比較すると、経済的・収入の差があることが分かる、というような具体的なことを記載できるとよい。
- 大崎コーディネーター  
皆様のご意見をまとめると、まずは中学生を対象に絞った教材・指導書を作成し、その後小学生向け・高校生向けや法人向けにアレンジしていけるようなことが

できるといいと考えている。

また、学校・家庭での安心安全な居場所が確保できていない若年層女性が増えていることを実感しているため、特にコロナが若年層にどのような影響を与えているか把握したいと考えている。困難を抱える若年層への働きかけを行っている団体からも取組を聞いていきたい。

教材についても、皆さんからいただいたご意見・ご提案を踏まえて、また今後のチーム活動でユース団体からも意見を聞いて、具体的な内容を検討・作成していきたい。新たなご意見等がある場合は、ぜひメール等でお寄せいただきたい。

以上

(別紙)

## 御出席者一覧

◎コーディネーター、○副コーディネーター

ご氏名	ご所属
○大石 真子	NPO 法人ハナラボ 理事
◎大崎 麻子	特定非営利活動法人 Gender Action Platform 理事
村山 伸子	新潟県立大学人間生活学部長
室伏 きみ子	お茶の水女子大学長
山屋 理恵	特定非営利活動法人インクルいわて理事長
片岡 麻里	公益社団法人ガールスカウト日本連盟事業統括部長（代理出席）
後藤 弘子	一般社団法人国立大学協会（千葉大学大学院専門法務研究科教授）
青野 篤子	人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会福山大学名誉教授
玄番 允子	全国人権擁護委員連合会副会長
赤池 恵理	全国婦人相談員連絡協議会副会長
千葉 千恵	全日本中学校長会会計部長
山下 いづみ	一般社団法人大学女性協会理事
中里 良一	一般財団法人日本グラウンドワーク協会専務理事
近藤 科江	一般社団法人日本女性科学者の会会長
名取 はにわ	認定特定非営利活動法人日本 BPW 連合会副理事長
山本 和代	日本労働組合総連合会副事務局長
清塚 典子	公益財団法人日本 YWCA 運営委員
増子 富美	婦人国際平和自由連盟（WILPF）日本支部会長